

東北労働金庫 障がい者福祉の推進のため東北6県に寄付

7月5日、東北労働金庫岩手県本部（八幡博文本部長）から、岩手県社会福祉協議会に35万9千円の寄付がありました。

贈呈式では、八幡本部長から長山会長に「障がい者の皆さんや、就労施設にぜひ役立てていただきたい」と目録が手渡され、長山会長は「多くの施設が新型コロナウイルスの影響により減収となっている中、このような支援は大変ありがたい。障がい者、支援する職員への何よりの励ましになる」と感謝を伝えました。

同金庫（本店・仙台市、砂金良昭理事長）では、昨年度からこの取組（東北ろうきん社会貢献活動「T・R・Y」）を開始し、対象取引1件につき100円を拠出し、東北6県の社会福祉協議会に寄付を行っています。

今年度の寄付総額は215万4千円となり、各県において、障がい者の就労支援等に活用されます。



長山会長に目録を贈呈する八幡本部長（左）

岩手銀行労働組合 いわて車いすフレンズの活動に使用済み切手を寄贈

8月17日、岩手銀行労働組合（竹花純哉執行委員長）から岩手県社会福祉協議会に、使用済み切手4,660グラムが贈呈されました。

寄贈式では、竹花執行委員長から稲葉亘事務局次長に、「集まった切手を車いすフレンズの

活動に役立ててほしい。喜んでくれる人がいればありがたい」と目録が手渡され、稲葉事務局次長は「継続したご支援に感謝申し上げます。車椅子を購入できず日常生活に困っているアジアの人々のため、工業高校の皆さんは心を込めて修理に取り組んでいる。いただいた使用済み切手を、活動のために活用したい」と伝えました。

同組合では、「いわて車いすフレンズ」活動の始まった平成15年度から、19回にわたり取組を行っています。

寄贈された使用済み切手は、換金され、車椅子を国内の空港や船着き場まで運ぶための輸送費として活用されます。



稲葉次長に目録を贈呈する竹花執行委員長（左）

ジャパングolfツアー選手会 復興支援のため福祉活動車両を寄贈

8月5日、国内男子プロゴルフ選手によるジャパングolfツアー選手会（時松隆光会長）から紫波町社会福祉協議会（近藤英一会長）に、福祉活動車両（軽乗用車）1台が贈呈されました。

岩手県社会福祉協議会の長山洋会長の立会いのもと行われた贈呈式では、選手会の宮本勝昌理事から、「東日本大震災以降、選手会という形で少しでも力になればと車両の寄贈を行ってきた。今後もできるだけ継続して復興支援に関わっていききたい」と紫波町社協の石亀孝文副会長に目録が手渡され、石亀副会長は「誰でも安心して暮らすことのできる福祉のまちづくりのため、いただいた車両を活用してまいりたい」と謝辞を述べました。

同選手会では、震災復興支援として、選手の獲得賞金の1%（およそ3,000万円）を原資に、



寄贈車両の前で記念撮影を行う宮本理事（左）と石亀副会長（右）

2014年度から、岩手、宮城、福島県の3県に福祉活動車両を寄贈しています。寄贈台数は、今回で各県62台となりました。

「いわて車いすフレンズ」とは

県内の工業高校生が中心となって、利用されなくなった車椅子を修理・整備し、アジア諸国の車椅子を購入できずに困っている方々にプレゼントするボランティア活動で、活動開始の2003年からこれまでに、19か国に延べ1,003台の車椅子を贈っています。

この活動は、参加各校による修理活動のほか、輸送ボランティア、輸送経費の一部に充てるための書き損じはがき等の収集ボランティア、アジア各国の現地コーディネーターなど、多くの関係者によるボランティアのリレーで実施されています。

